

4.

市民会館敷地の活用(仮称:ひみ発見館)

～ 図書館、博物館と一体となった“水とみどりの憩い空間” ～

(1) 敷地概要と特性

■ 敷地概要

所在地 : 氷見市本町 4-10
 敷地面積 : 4,220 m²
 用途 : 商業地域
 建蔽率 : 80%
 容積率 : 400%



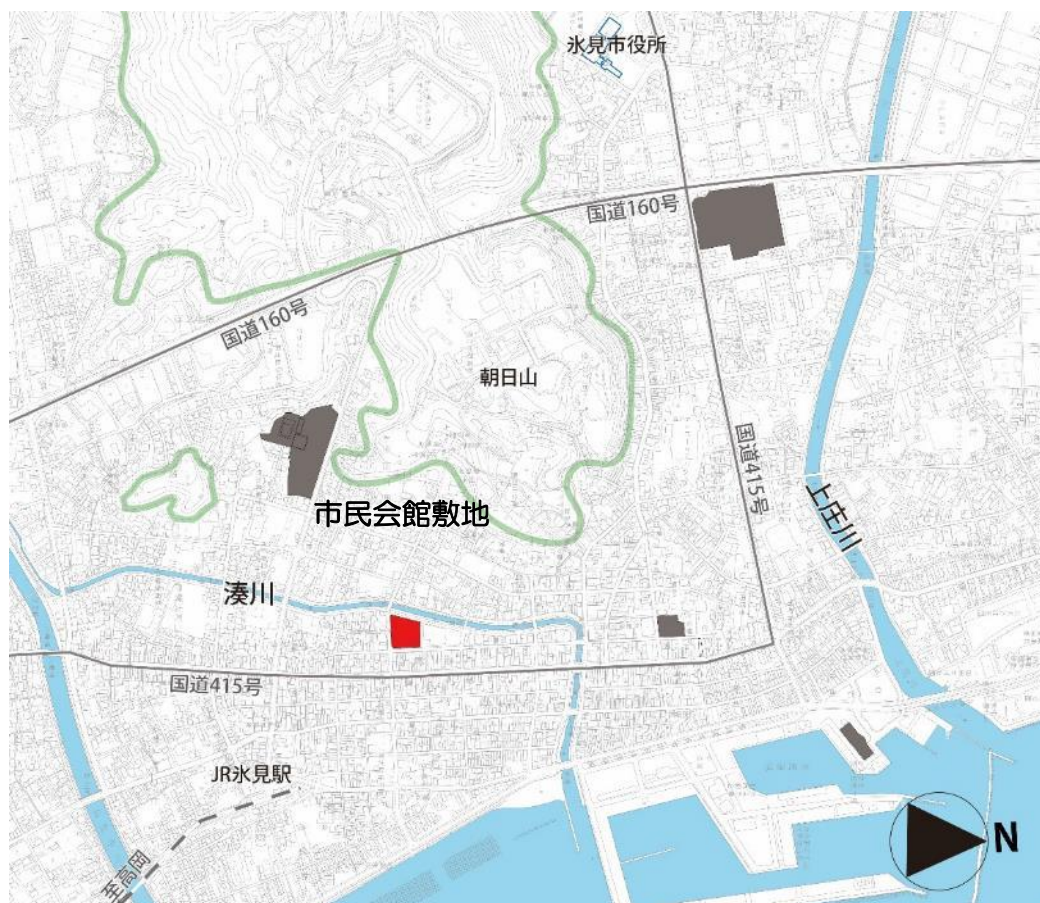
市民会館敷地

■ アクセシビリティ

主要道路に面しておらず、前面道路幅員もやや狭いため、自動車でのアクセシビリティは高くありませんが、氷見駅から500m圏内に位置し、4箇所の空地の中では駅に最も近く、駅利用者が最初に訪れやすい場所となります。

■ 周辺環境

教育文化センターや湊川沿いの遊歩道と上日寺に至る市道に接しているため、様々な教育、文化の利便性が高い立地です。また、一街区をまたいで商店街の通りがあります。



(2) 活用の方向性

1) 活用の考え方

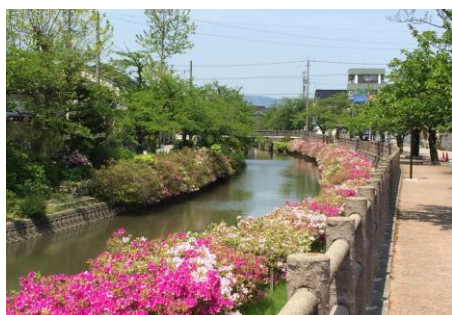
市民会館敷地は、氷見の歴史・文化の再発見などを通して、交流と憩いを創出する「交流・憩いゾーン」に位置しています。

ここでは、朝日山や湊川との近接性を活かしながら、図書館・博物館と連携して、市民交流と誘客を促進する水とみどりの憩い空間として「ひみ発見館」を整備します。

図書館・博物館と連携した施設計画を進め、ふるさと学習の拠点として活用します。併せて、幼児連れの親子、中高生、高齢者など、誰もが利用しやすく、湊川の親水空間と一体となった施設環境を整備し、快適で潤いのある公共空間を創出します。

2) 周辺との関係性

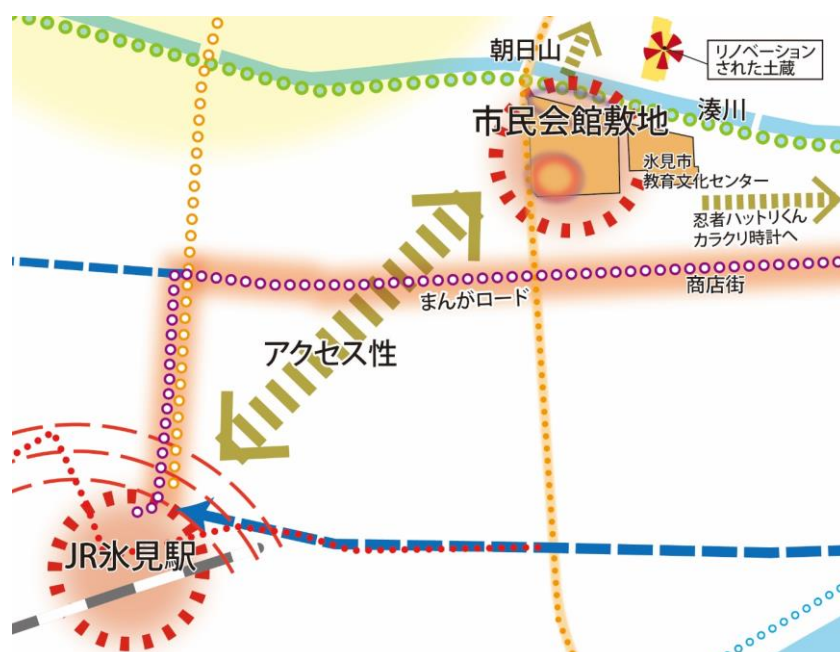
湊川や朝日山を借景とするなど、周辺の水とみどり環境を活かした施設計画を行います。また、商店街からの回遊を生み出すアプローチ街路の整備などの工夫を施します。さらに、上日寺に向かう市道や湊川沿いの遊歩道などにつながる散策ネットワークの核とするとともに、ごんごん祭りや祇園祭りなど、祭礼時のたまり空間としての活用や災害時の防災広場等にも利用します。



湊川



上日寺への市道



(3) ひみ発見館の施設構成

1) 施設機能と概念図

隣接する教育文化センターや周辺の立地環境を活かし、市民や観光客にとって「ふるさと学習」の拠点となるよう、4つの機能で構成します。

① ふるさと学習機能

教育文化センターの文教機能として、図書館や博物館の機能を充実します。ひみ発見館は、教育文化センターとともに、ふるさとを学習する機能を展開します。

② 水とみどりの憩い機能

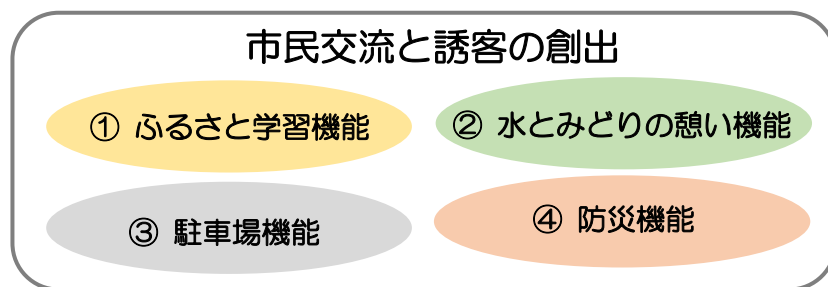
朝日山や湊川を借景とし、水とみどりの中で読書を楽しみ、交流できる環境を充実させます。

③ 駐車場機能

教育文化センターで不足している駐車台数を増やし、観光バスやスクールバスにも対応できる駐車場とし、モビリティステーションを備え、まち歩き起点とします。

④ 防災機能

湊川東側のまちなかに位置する地域の防災活動拠点とします。



2) 施設の構成と施設構成図

① ひみ発見館

a. ふるさとアーカイブ

氷見市出身の偉人（浅野 総一郎氏、斎藤 弥九郎氏、南 弘氏 等）を紹介する偉人アーカイブをメインとしながら、湊川を起点としたまちなみ形成史や地域の祭礼行事などの氷見の歴史がわかるコーナー等によって、氷見を再発見し愛着を育む場を整備します。

b. カフェ

湊川や川向こうの土蔵の風景を眺めながら、寛げるカフェと水辺のテラスを計画します。

c. こども図書室

子供や同世代の親同士がゆったりと過ごせるファミリーラウンジを設け、声を出して本を読み、読み聞かせできるコーナーを整備します。

d. トイレ、授乳室

赤ちゃん連れに配慮したトイレ、授乳室を整備します。

e. 中高生の居場所

自学自習や友達とのおしゃべり、読書、トランプ等様々な活動ができる場です。フリースペースは、気軽に過ごす事ができるように椅子、テーブル、ソファ等を配置します。また、中高生の地域活動への参画や活動発表の拠点としても活用します。

② 水辺のテラス

a. 広 場

湊川の眺望を活かしたテラスを整備し、水とみどりの中で読書を楽しみ、交流できる場を設けます。

b. 天馬船乗り場

湊川の四季の移ろいを堪能する天馬船の乗り場を湊川に計画します。

③ 駐車場

教育文化センターや商店街利用者用として普通車80台程度、観光バス2台程度の駐車場を設けるとともに、モビリティステーションを回遊の拠点として整備します。

④ 教育文化センターの改修

a. 一般開架

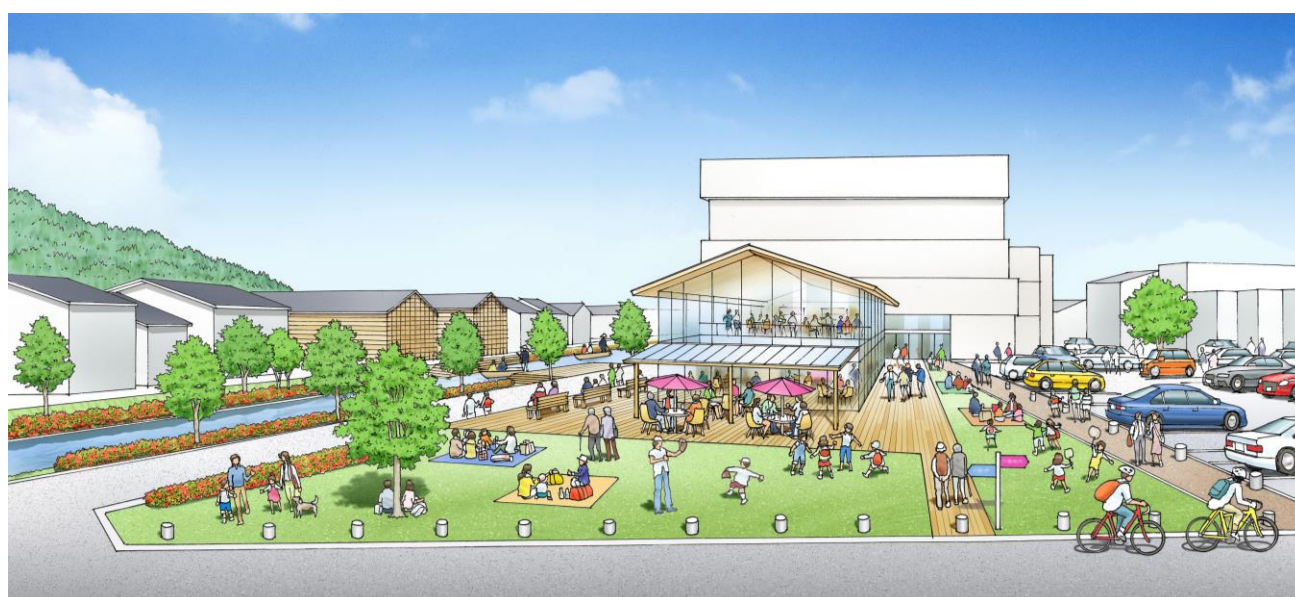
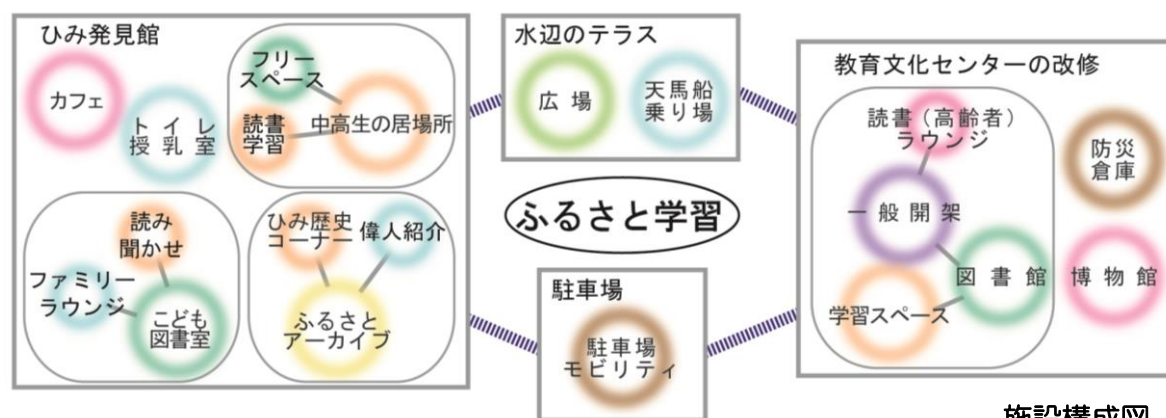
一般開架スペースを1階児童読書室と中2階学習室に拡張するとともに、湊川の水と緑を望める静かな読書ラウンジや高齢者の憩えるコーナーを整備します。

b. 学習スペース

3階倉庫を学習スペースとして改修します。

c. 防災倉庫

周辺地域の防災拠点として防災倉庫を整備します。



ひみ発見館パースイメージ

(4) ひみ発見館配置イメージ図

中高生の居場所イメージ



フリースペース

水辺のテラスイメージ



天馬船

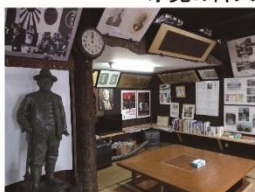


湊川のつつじ

ひみ発見館イメージ



氷見の偉人



ふるさとアーカイブ



カフェ



こども図書室



木造建物

祭礼時の活用イメージ



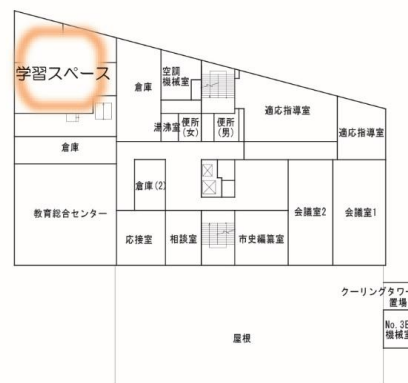
集合する曳山



ひみ発見館は、湊川沿いの水辺のテラスと一体となって憩い空間を形成します。また、対岸のリノベーションされた土蔵との景観的な連続性をつくるために、川辺のデッキ等を配置します。駐車場は、イベントや祭礼時には広場としても活用できる計画です。



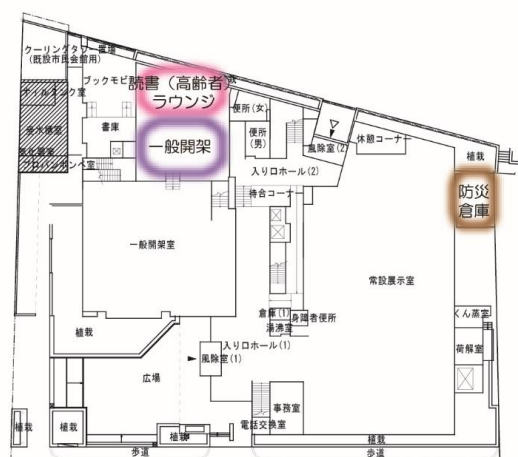
教育文化センター改修の方向性



3階



中2階



1階

（５）「ひみ発見館」と周辺の都市デザイン戦略

【まちなか回遊性】

- JR 氷見駅から旧市役所跡地までの中間地点にあり、鉄道で訪れる観光客が歩いて立ち寄る最初のポイントとなります。まちなか観光の休憩や氷見の歴史を学べる空間として、多く市民や観光客が訪れることにより、まちなかの回遊性を高めます。

【祭礼・防災広場】

- ・ごんごん祭りや祇園祭りなどの祭礼や災害時に活用できる広場空間を新たに計画します。

＜市民会館敷地・都市デザイン戦略図＞



【湊川ファサード】

- 水辺のテラスやデッキによって親水空間を演出するとともに、川沿いの建物のファサードの形成や緑化、川沿いの店舗の立地を促進することで、潤いある空間をつくります。
- 上日寺から海岸へと続く歴史の道を散策路として整備し、寺社が集積し、歴史を感じられる新たな観光エリアとして観光客の回遊を促します。

【散策路】

- まんがキャラクターによる案内サインや道しるべを交差点等に設置することにより、まんがロードを駅まで延伸し、楽しく回遊できる環境をつくります。



5.

旧朝日丘小学校跡地の活用(仮称:ひみ子育ての杜)

～ 小中高と連携した“総合的な子育て支援の拠点”～

(1) 敷地概要と特性

■ 敷地概要

所在地 : 氷見市朝日丘 546-1
 敷地面積 : 14,620 m²
 用途 : 第1種中高層住居専用地域
 建蔽率 : 60%
 容積率 : 200%



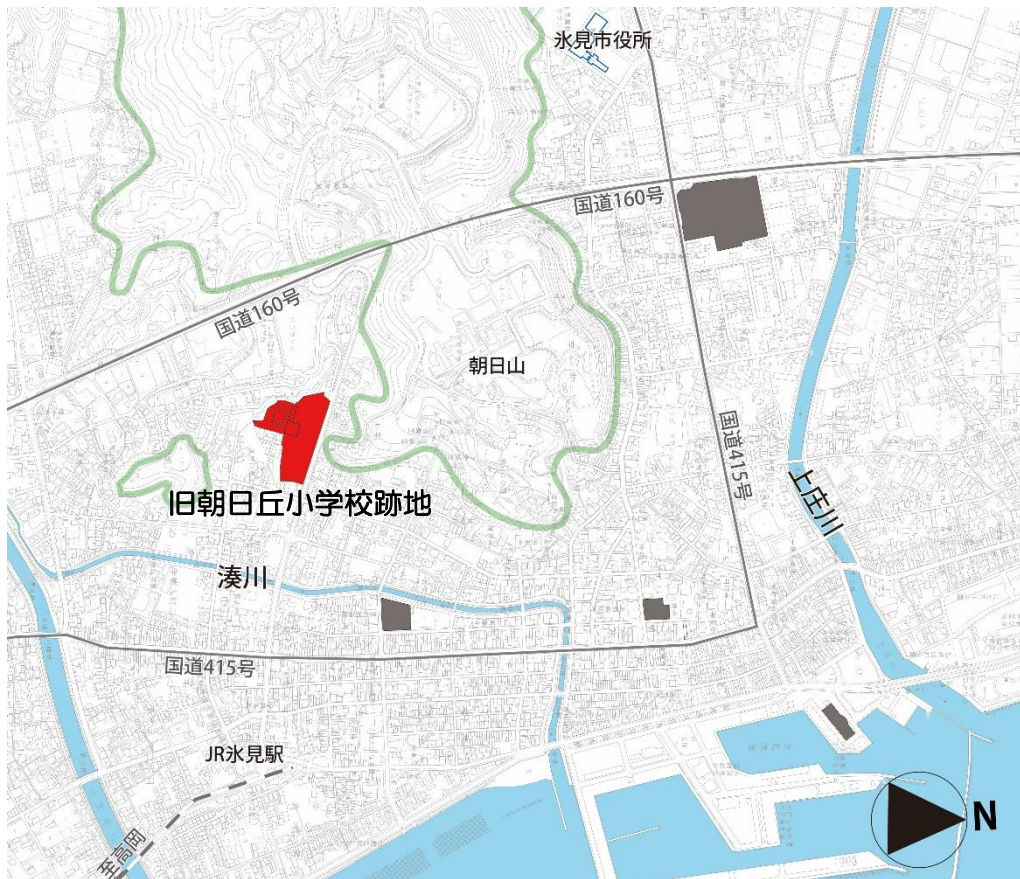
旧朝日丘小学校跡地

■ アクセシビリティ

駅と一直線に結ぶ前面道路は一定の幅員があり、自動車でのアクセシビリティは良好ですが、公共交通機関は市街地循環バスのみで、市街地の外側と結ぶ路線バスのバス停まではやや離れています。

■ 周辺環境

隣接した丘に朝日丘小学校、南部中学校、氷見高校が立地しており、教育環境が整っています。



(2) 活用の方向性

1) 活用の考え方

旧朝日丘小学校跡地は、子育て支援と文化教育機能の充実により、多世代が暮らしやすい「文教・子育てゾーン」に位置しています。

当該跡地は、朝日丘小学校や南部中学校、氷見高等学校に近接し、周りは豊かな緑に包まれるなど、教育環境や自然環境に恵まれています。

その一方で、市街地の保育施設はいずれも老朽化しており、早急な保育環境の改善が必要となっていることから、こども園を中心とした市街地南部の子育て支援の拠点として「ひみ子育ての杜」を整備します。

こども園では、幼保小中高が連携した教育を推進するとともに、隣接する用地には子ども達や保護者が自然の中で集い楽しむ場を整備し、心身ともに健やかで伸びやかな子ども達を育成します。

前面のグラウンドは、地域のスポーツ団体が利用しているほか、イベント開催時の臨時駐車場としており、引き続き、こうした利用ニーズに応えていきます。敷地内に残る旧朝日丘小学校校舎の一部と体育館は、学童保育や音楽サークル団体、地域スポーツ団体等が利用しており、既存施設の活用も図ります。ただし、体育館は耐震診断の結果を踏まえ、施設のあり方を引き続き検討します。

2) 周辺との関係性

周辺の教育環境を踏まえ、幼保・小・中・高の連携を考えます。

前面の道路沿いの景観に配慮した配置や送迎時間帯の安全性の確保に配慮するとともに、朝日山の土砂災害等に備えた敷地計画とします。



朝日丘小学校・南部中学校



氷見高校



(3) ひみ子育ての杜の施設構成

1) 施設機能と概念図

子供から大人まで多世代と交流し、豊かな自然環境を活かしながら、こども達の健やかな成長を支援するために、4つの機能で構成します。

① こども園

建替えが緊急に必要なこども園の建設用地とします。

② ふれあい交流機能

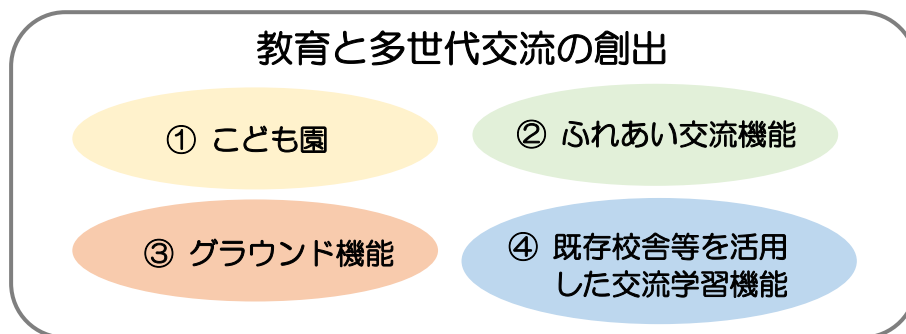
芋掘りや果実採り等、幼保・小・中・高の交流を図る拠点として、菜園や果樹園、食事会ができる空間など、多世代がふれあい、交流する機能を備えます。

③ グラウンド機能

グラウンドは現在の利用を継続します。また、周辺地域の避難場所や防災活動拠点としても活用し、将来的な土地活用のリザーブ用地としても位置づけます。

④ 既存校舎等を活用した交流学习機能

現況の使い方を継続するとともに、中高生が集い子供達との交流が図れる多世代が交流学习する機能を整備します。



2) 施設の構成と施設構成図

① こども園

a. こども園

市街地内の南部のこども園の移転改築を行います。子供たちの健やかな成長を支援します。

b. 駐車場

こども園用として必要な台数を確保します。

② ふれあい交流園

a. 交流農園

芋掘りなど世代で交流できる交流農園を整備します。

b. ふれあい果樹園

木の手入れや収穫を通して自然にふれあうことができる果樹園を整備します。

c. 交流広場

交流農園やふれあい果樹園で収穫した食材を調理し、食事会ができる広場を整備します。

③ 既存校舎等の活用

a. 既存校舎

既存校舎は、現在の活用に加えて、2階に交流学習室を整備します。

b. 体育館

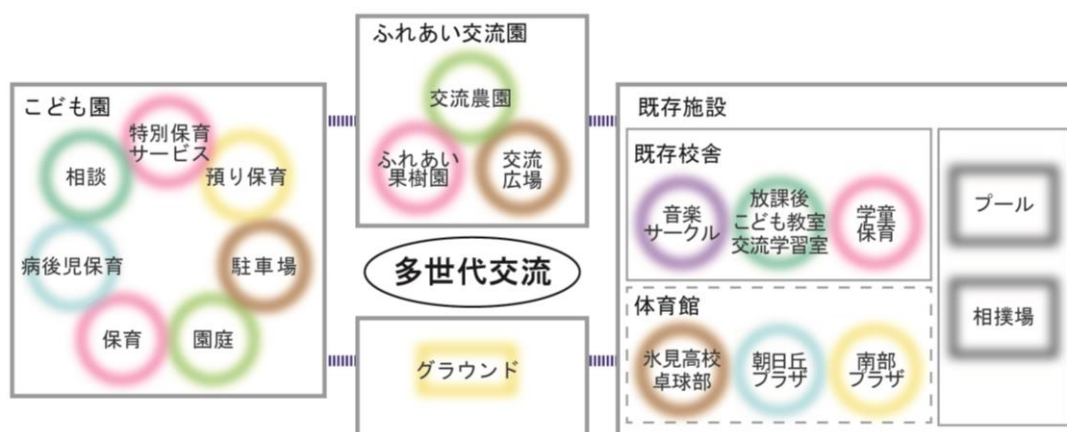
体育館の活用は、耐震診断の結果をふまえ、そのあり方を引き続き検討します。

④ グラウンド

野球等の練習場としての機能やイベント時の臨時駐車場としての機能を継続します。また、災害時の避難場所や防災活動の空間として活用します。

⑤ 駐車場

グラウンドや既存校舎、体育館の利用者用、こども園への来訪者用としての一般駐車場を30台程度整備します。



施設構成図

(4) 整備の考え方

こども園は、民間事業者による整備を想定します。



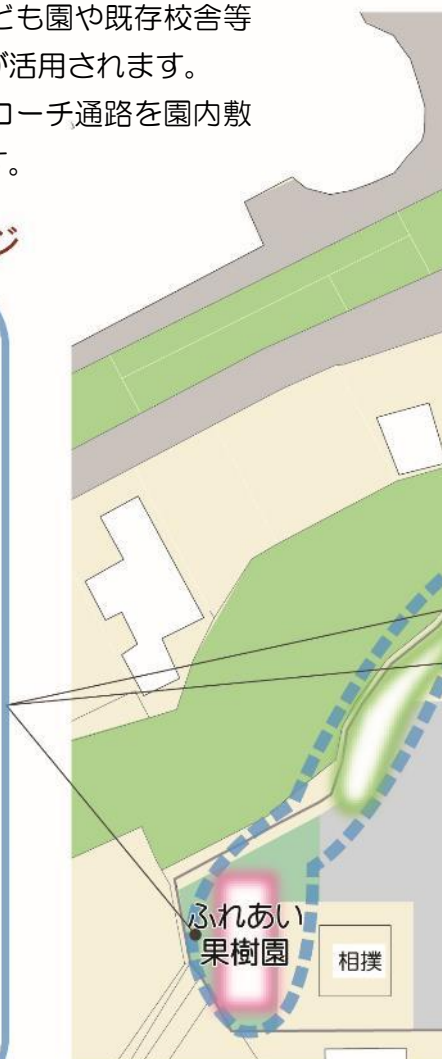
ひみ子育ての杜パースイメージ

(5) ひみ子育ての杜配置イメージ図

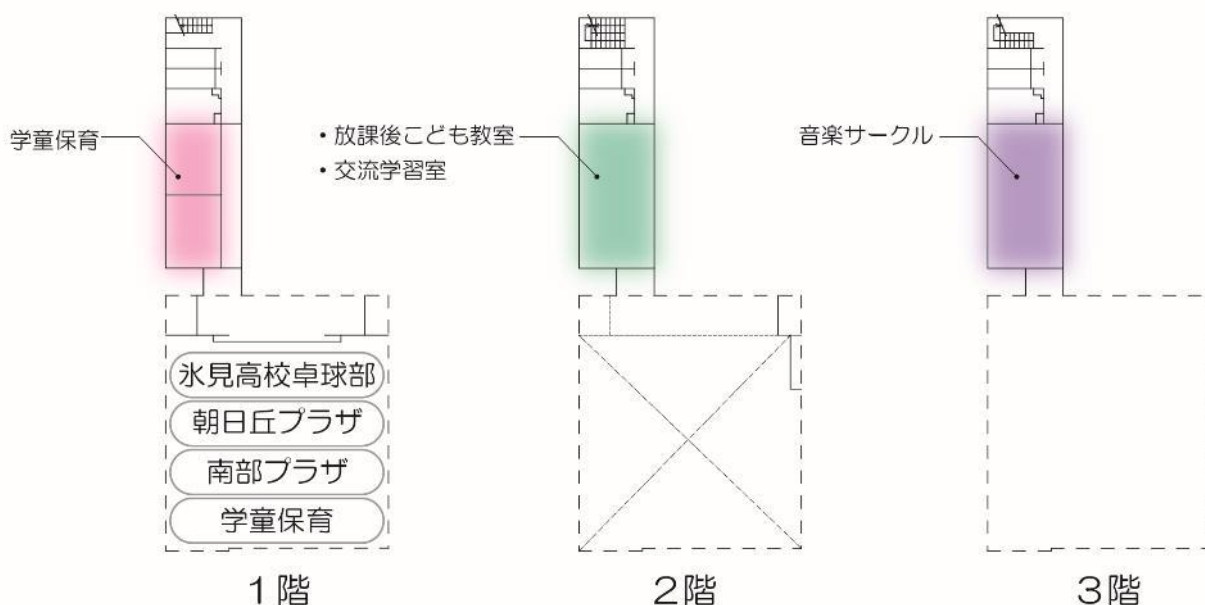
ひみ子育ての杜は、交流広場を中心に囲むように、こども園や既存校舎等を配置しています。それぞれの連携イベントなどに広場が活用されます。

こども園への送迎には、入口と出口が別になったアプローチ通路を園内敷地に設けて、前面道路への影響を小さくする配慮をします。

ふれあい交流園イメージ



※既存校舎活用





(6)「ひみ子育ての杜」と周辺の都市デザイン戦略

【教育環境づくり】

- 子育て支援機能や周辺の学校の立地などを活かして、中高大学生による子どもたちの学習サポート、中高校生による子育て支援のイベント企画や活動参加など、幼保小中高の連携による教育環境づくりを進めます。

【周辺の住環境づくり】

- 子育て支援機能や教育環境が充実する地域づくりを目指し、良質な住宅地の整備誘導、空き家等のリニューアル、地域の子育てサポートなどにより、子育て世帯が住みやすい住環境づくりを進めます。

【魅力ある道づくり】

- 旧朝日丘小学校跡地から JR 氷見駅に向かう道を学びの道とし、潤いとゆとりのある住宅地の景観づくりを進めます。

【歴史散策路の整備】

- 上日寺や朝日貝塚などを結ぶ歴史の道では、歴史を感じる散策路の整備やサインの設置などにより、住民や来街者の回遊の魅力を高めます。

【凡例】

-  新たなまちなか交通システム
(自動運転小型モビリティ等)
-  モビリティステーション
(公共駐車場
+ まちなか移動手段乗り換え)
-  まんがロード
-  歴史の道
-  学びの道
-  みどりの散策路
-  湊川散策路・仏生寺川散策路
-  回遊の散策路

<旧朝日丘小学校跡地・都市デザイン戦略図>



6. その他の関連施設

(1) 漁業文化交流センターの活用(仮称:氷見さかな館)

1) 敷地概要と特性

■ 敷地概要

所在地 : 氷見市中央町 7-1
敷地面積 : 3,348 m²
用途 : 準工業地域
建蔽率 : 60%
容積率 : 200%



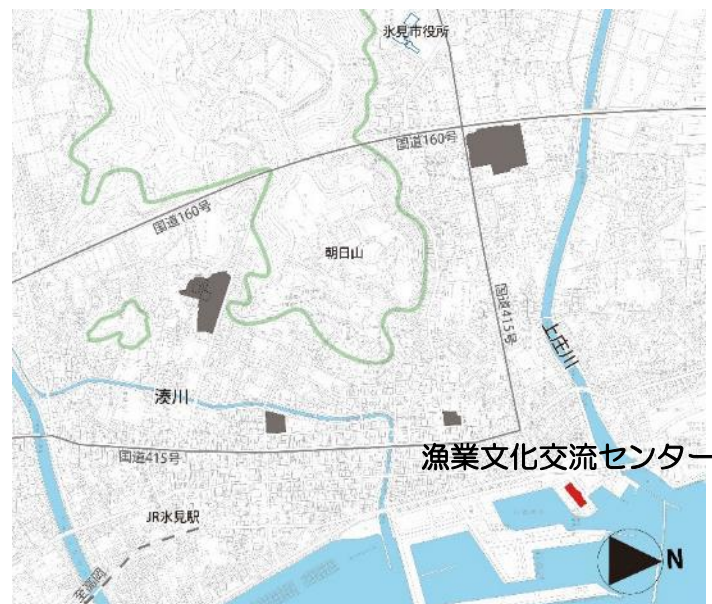
漁業文化交流センター

■ アクセス性

前面道路は一定の幅員があり、施設前に駐車場も整備されており、自動車でのアクセス性は良好です。また、バス停が敷地前にあり、3路線が走っています。

■ 周辺環境

比美町商店街、中央町商店街、ひみ番屋街、氷見漁港に近接しています。



■ これまでの経緯

平成 12 年 4 月	氷見浜観光株式会社が「氷見フィッシャーマンズワーフ海鮮館」をオープン
平成 24 年 9 月	「海鮮館」閉館
平成 25 年 7 月	氷見市が「海鮮館」の建物を取得
平成 27 年 4 月	「海鮮館」を改修し、伝統ある氷見の漁業と漁村文化の伝承を核とした観光交流・地域交流の拠点施設として、「ひみ漁業交流館魚々座」がオープン
平成 28 年 10 月	「魚々座」閉館
平成 29 年 7 月	「魚々座」を「氷見市漁業文化交流センター」と改め、再オープン

2) 活用の方向性

① 活用の考え方

漁業文化交流センターは、漁業文化や生業、まんが、飲食などを楽しめる観光回廊づくりを進める「観光まちなか回遊ゾーン」に位置しています。

この施設は、氷見漁港内にあり、目の前には「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟する富山湾が広がるなど、「魚のまち・氷見」を体感できる絶好の場所に位置しており、氷見の漁業や漁村文化について、市内の児童や観光客が楽しみ、見て学べる「氷見さかな館」として施設の改修を行います。

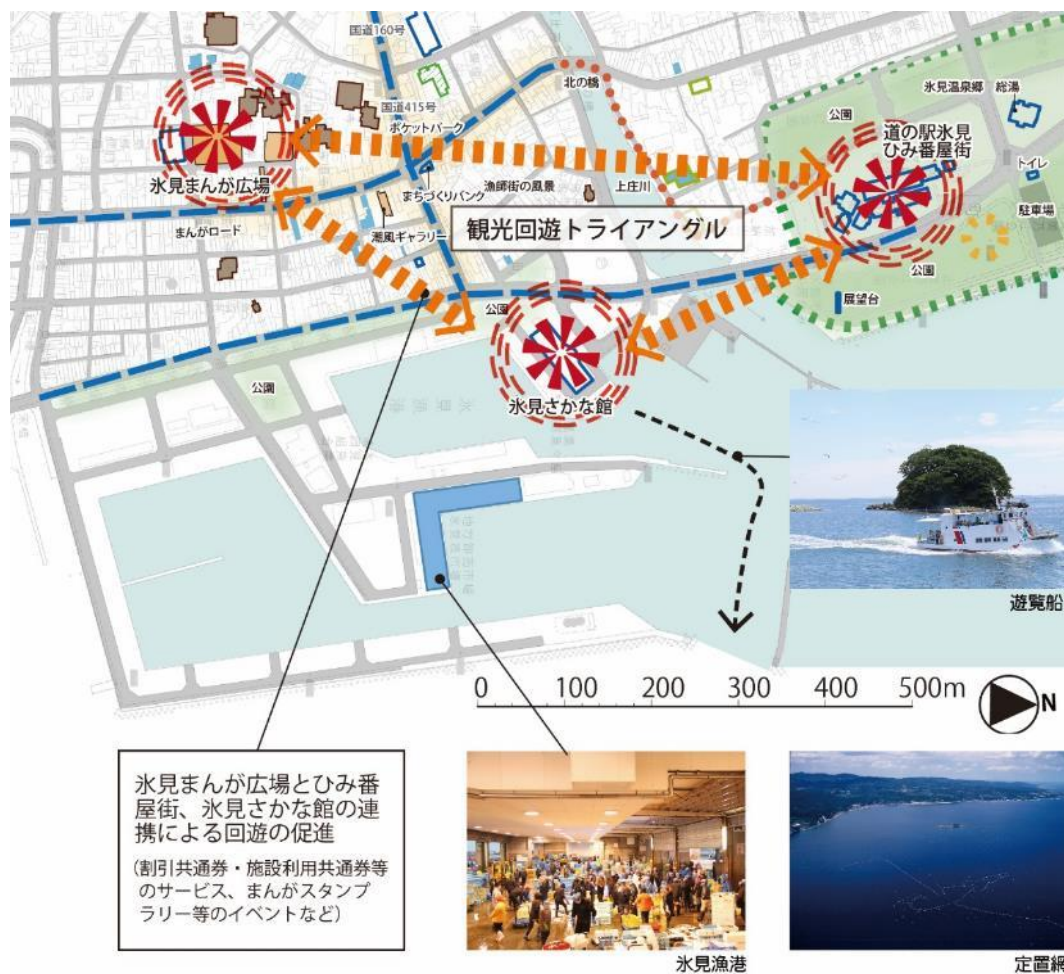
また、「氷見さかな館」は、世界農業遺産登録に向けた中心施設として各種のソフト施策を展開するほか、環境にやさしい定置網や富山湾の魅力の発信、魚食文化の普及、まちなか回遊のステーションなどの役割を担い、氷見特有の賑わいの空間を創出します。

② 周辺との関係性

漁業文化交流センターは、旧市役所跡地とひみ番屋街を結ぶ観光回遊トライアングルの拠点のひとつとして位置づけます。

遊覧船乗り場との近接性を活かし、氷見漁港や定置網漁場も見学できます。

③ 周辺連携図



3) 施設機能

既存の施設を活用しながら、「魚のまち・氷見」を象徴し、氷見ならではの本物の漁業文化に出会えて学べる、集客力ある施設を目指すため、3つの機能で構成します。

① 漁業文化の伝承、発信機能

- ・氷見の漁業文化を伝えるストーリー性に富んだ展示手法の充実
- ・世界農業遺産の登録に向けた情報発信や講演、フォーラム等の開催
- ・家族連れが楽しみながら漁業や海に親しめる設備の充実

② 地域・観光交流機能

- ・世界で最も美しい湾クラブに加盟している富山湾の魅力発信と、富山湾岸サイクリングの拠点としての活用推進
- ・団体観光客の食事会場としての施設利用
- ・市民団体等の各種イベント等での施設利用

③ 研修機能

- ・調理設備を活用した体験事業の実施
- ・漁業体験教室や各種研修会場としての利用

4) 施設構成

漁業交流センター内部の具体的な改修にあたっては、国の交付金や漁業施設としての要件、その他の関連法令を勘案して検討を進めます。

① 多目的スペース

団体観光客の昼食会場としての利用や、コンベンションやライブなど大人数が集える場として整備します。

② 研修室

独立した研修スペースとして、20～40名程度の研修や会議等に利用可能とし、空調、照明、音響設備等の環境を充実します。

③ 展示スペース

情報発信拠点としての機能強化を図るため、解説用設備の設置や映像等の制作、陳列棚・展示照明等の設備の改修を行います。

④ 調理体験スペース

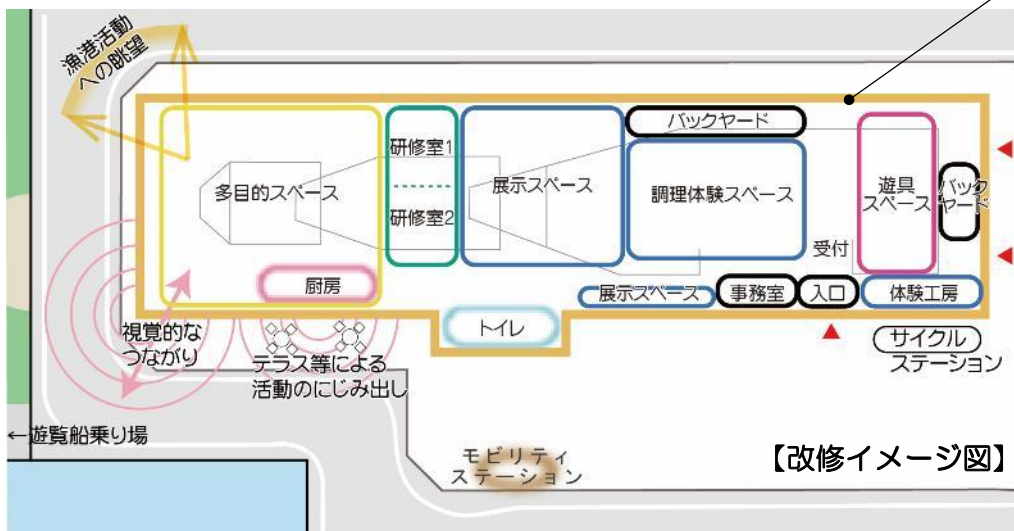
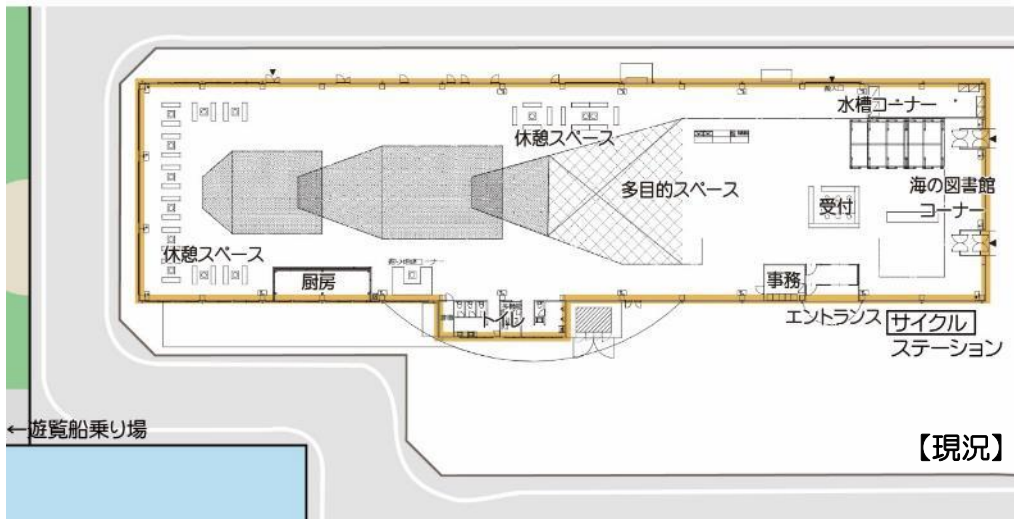
魚捌き方教室や、水産加工品の開発等、実際に調理体験が行える場とし、照明の改修等、調理に適した環境を整備します。

⑤ 遊具スペース

雨天や降雪時でも利用できる、こども達が遊べる場を計画します。そして、遊びながら海に愛着を持てるような仕掛けを施します。

⑥ 体験工房

3Dプリンターを活用した展示や加工など、漁業文化を、見る、触る、学べる場を整備します。



氷見さかな館イメージ



多目的スペース



研修室



展示スペース



魚捌き体験



氷見さかな館パースイメージ

(2) JR氷見駅の活用

① 整備の考え方

JR 氷見駅は、富山湾の海岸線を走る氷見線の終着駅であり、まちの玄関口です。日常的な利用や観光客の利用を踏まえた氷見駅や駅前の魅力づくりにより、様々な人々を温かく迎える、まちの玄関口となる空間づくりを進めます。

② 周辺との関係性

氷見駅に降り立った観光客が、期待感を抱く雰囲気をつくるため、駅周辺の活性化の誘導やまんがロードを延伸し、回遊性の向上に結び付けます。

③ 周辺連携図



④「南の玄関口」計画

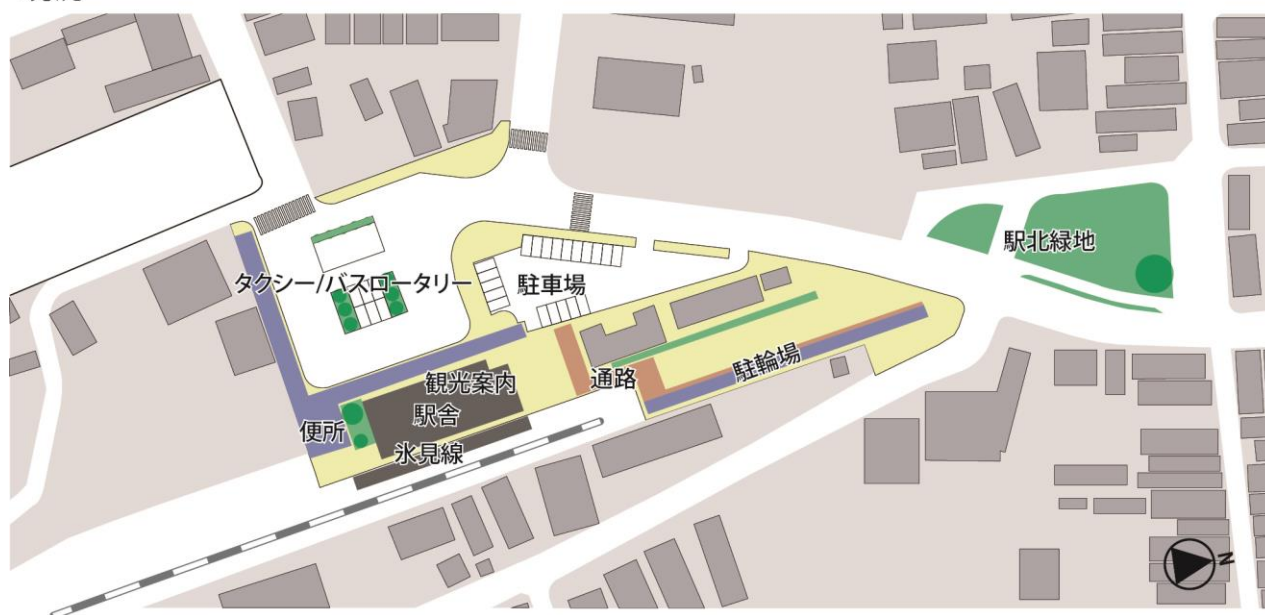
鉄道を利用する高校生が、友人との談笑や勉強ができる待合スペースを確保します。

また、高齢者や様々な人々にとって気持ち良く憩える駅周辺とするため、駅空間の形成や駅周辺の店舗などを誘導します。

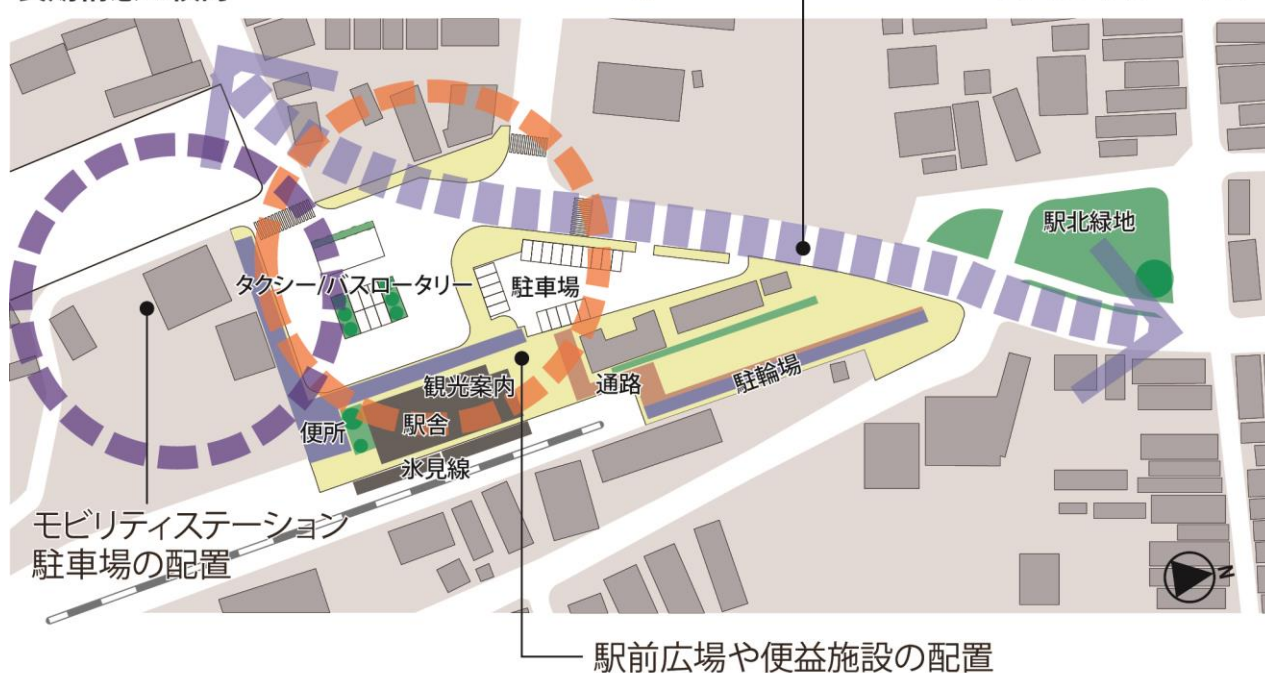
さらに、まちなか観光をサポートするモビリティステーションを配置し、観光案内を充実します。帰りがけにはお土産選びや休憩をしながら列車を待ち、最後まで氷見を楽しむことができる駅周辺の空間を形成します。

<将来イメージ>

現況



長期構想の検討



(3) 比美乃江公園(ひみ番屋街)の活用

① 整備の考え方

ひみ番屋街は、既存施設の魅力化を進めるとともに、観光コンシェルジュ機能を高め、旧市役所跡地や商店街、漁業文化交流センターを往来する回遊の拠点とします。

比美乃江公園は、海やみどりに恵まれた環境と富山湾越しの立山連峰の眺望などを活かした公園施設の充実を進め、ひみ番屋街のリピーターに加えて、新たな来街者を受け入れる利活用を進めます。

② 周辺との関係性

ひみ番屋街は、まちなか回遊を促進するため、まちなか交通、施設共通利用、まちなか案内、まちなかと連携したイベントなどを充実します。

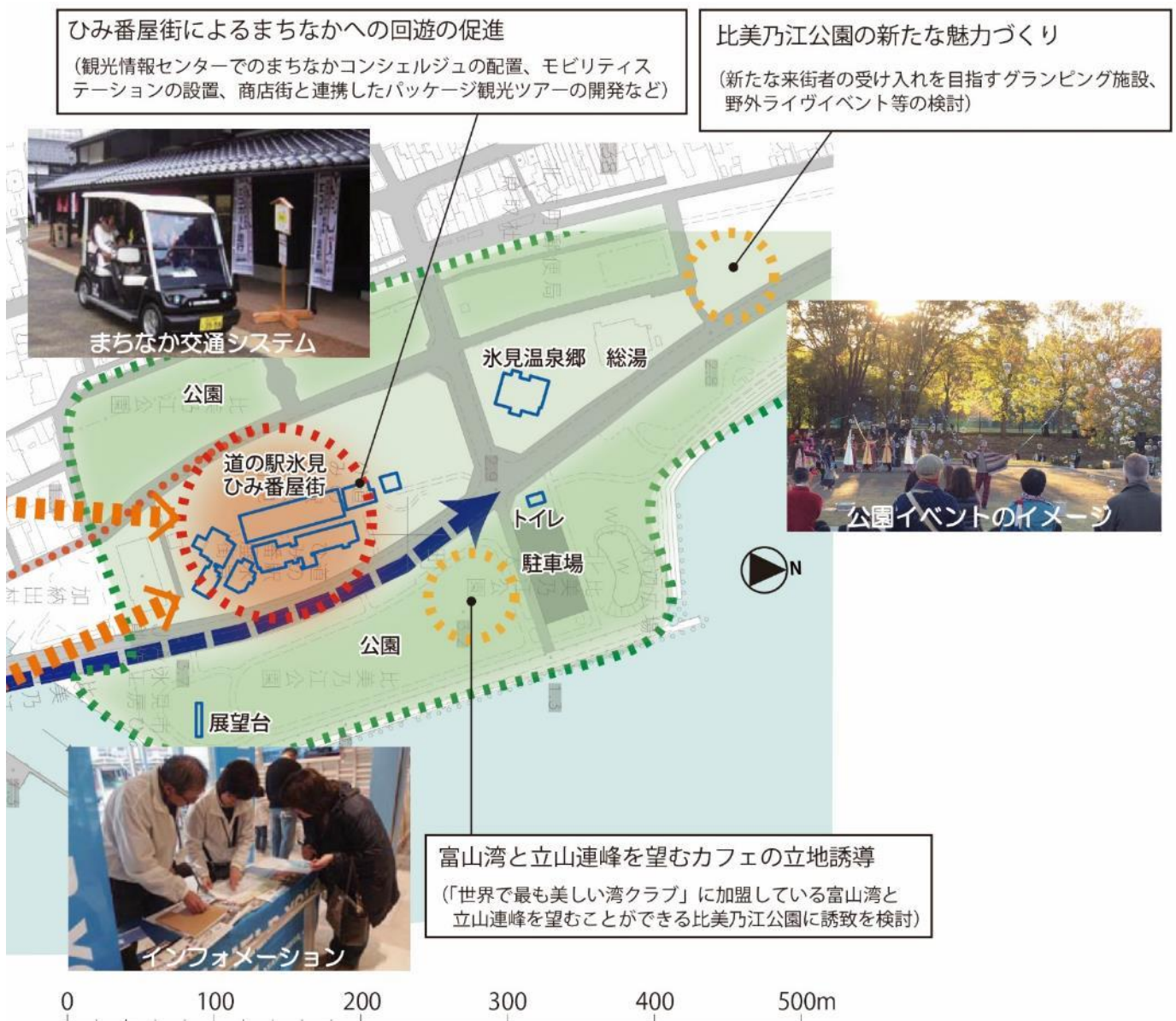
③ 周辺連携図



④「北の玄関口」計画

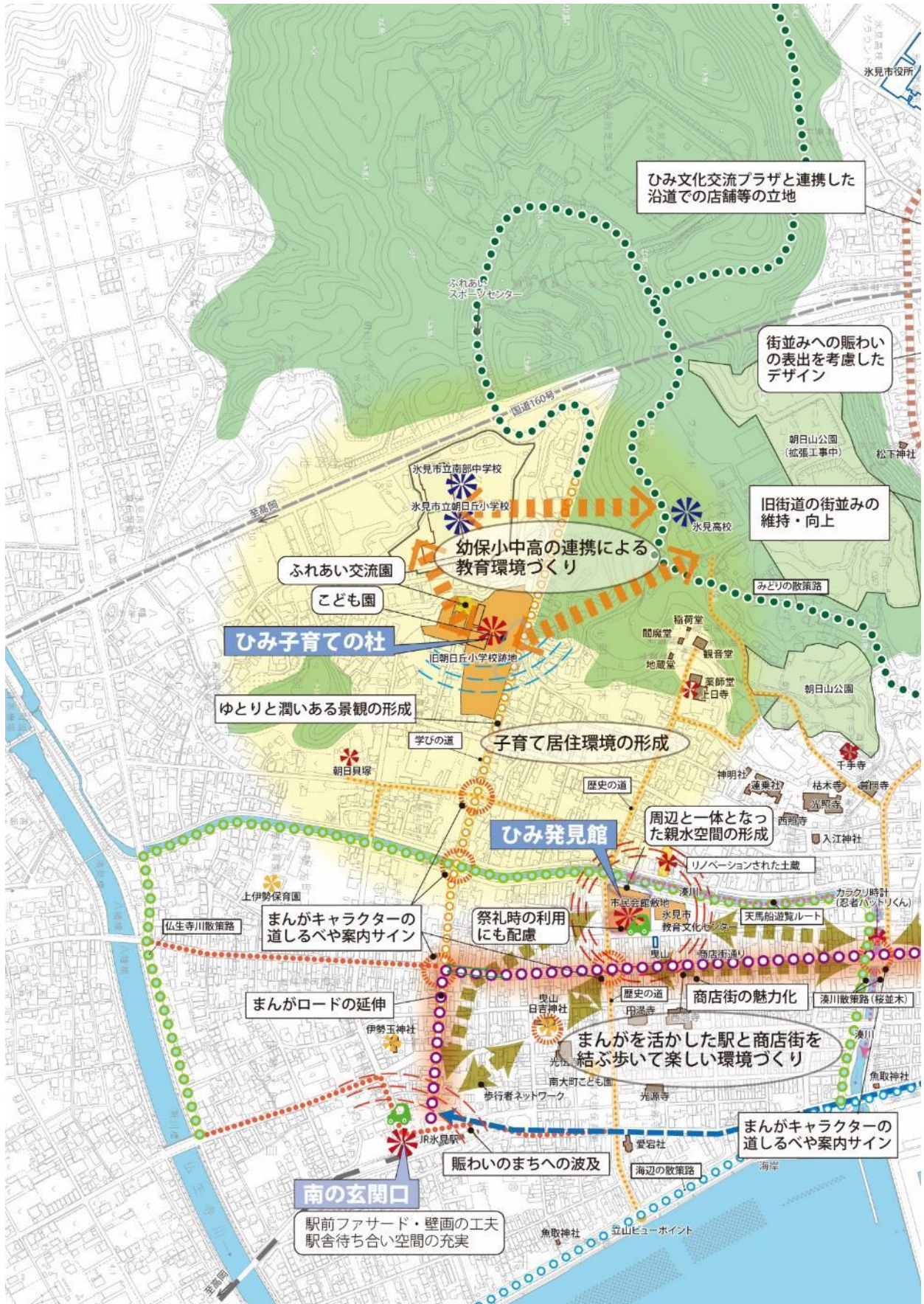
ひみ番屋街を訪れる観光客に対し、魅力的なまちなか交通手段や、まちなかを楽しめるスポットを紹介することで、ひみ番屋街から、商店街方面への回遊を誘発します。

富山湾越しに見える立山連峰の魅力的な景色や朝日の眺め、夜間の一面に広がる星空や海辺に映る月などの雄大さを体感しながら過ごすカフェやアウトドア施設の誘致を検討します。

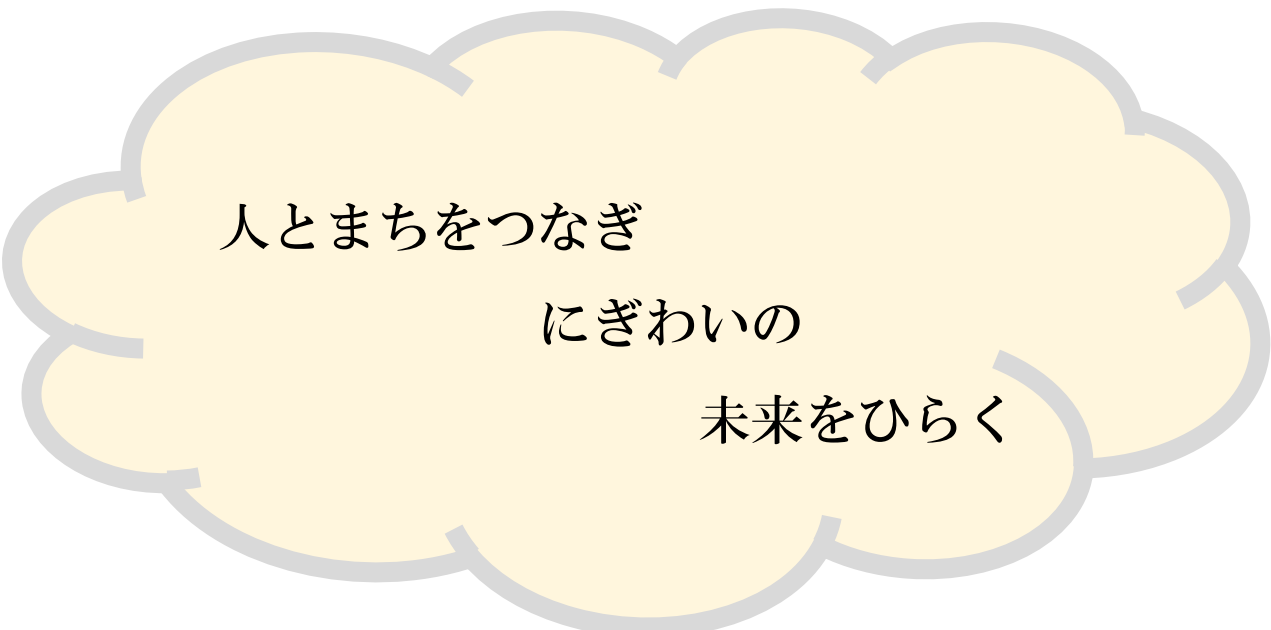


7. まちなか都市デザイン戦略全体図

4つの公共空地等の利活用と周辺の連携を全体的に示します。







人とまちをつなぎ

にぎわいの

未来をひらく